

- 問1 環境問題への対策として、食料の「輸送の距離」が環境に与える負荷を数値化する指標が注目されています。この指標を小さくし、地球温暖化を抑制するための具体的な取り組みとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 和歌山県公立入試 類似)
1. 有機農業を普及させ、化学肥料を使わない栽培方法を広める。
 2. 地産地消を推進し、地元で生産されたものを地元で消費する。
 3. 耕作放棄地を再生し、国内の食料自給率をカロリーベースで向上させる。
 4. 遺伝子組み換え食品の表示を義務付け、消費者の選択肢を増やす。
- 問2 国際的な環境ルールが、一部の国だけに削減を求めた仕組みからすべての国が参加する仕組みへと変更された事例から言える、社会における「ルール」や「効率」の捉え方として最も適切なものを選びなさい。 (2023年 宮崎県公立入試 類似)
1. 特定の国だけに負担をかけ続けることが、国際社会全体の効率と公正を永続的に両立させる唯一の方法である。
 2. ルールは一度定めたら変更してはならず、効率よりも過去の合意を守り続けることが最優先される。
 3. ルールは状況の変化に合わせて見直されるものであり、より多くの主体の協力によって目的達成の効率が高まることがある。
 4. 効率を高めるためのルール変更においては、公正の観点を完全に無視することが国際社会の合意形成において不可欠である。
- 問3 持続可能な社会の実現に向けた課題の一つである食品ロスを削減するため、多くの小売店で「てまえどり」という取り組みが推奨されています。この取り組みの目的と内容について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2022年 群馬県公立入試 類似)
1. 商品を購入する際、賞味期限や消費期限が近い手前の商品を優先的に選ぶことで、売れ残りによる廃棄を減らす。
 2. 陳列棚の奥にある製造日が新しい商品から選ぶことで、家庭に持ち帰ってからの食品の鮮度を最大限に保つ。
 3. 食品を無駄にしないために、賞味期限が既に切れてしまった商品を大幅に値下げして販売し、消費者に購入を促す。
 4. 買い物に行く回数を減らすため、賞味期限の長い商品を一度に大量に購入し、家庭内での在庫を切らさないようにする。
- 問4 2015年に採択されたパリ協定において、地球温暖化を食い止めるために掲げられた、世界の平均気温上昇に関する目標として適切なものを選びなさい。 (2018年 長野県公立入試 類似)
1. 世界の平均気温上昇を、産業革命前と比べて2度より十分低く保つように抑制する
 2. 世界の平均気温の上昇を、21世紀末までに1990年比で0度以下にする
 3. 発展途上国の気温上昇に合わせ、先進国の気温を19世紀の状態まで下げる
 4. 極地の氷が溶けないよう、北極海と南極海の周辺気温を氷点下に保つ
- 問5 1997年に採択された京都議定書では、地球温暖化を防止するための国際的な枠組みが定められました。1990年時点での世界の二酸化炭素排出量の割合は、中国が10.3%、インドが2.6%でしたが、2014年には中国が28.2%、インドが6.2%へと激増しています。こうした状況の変化を踏まえ、京都議定書の有効性に関する課題として最も適切な説明はどれですか。 (2018年 富山県公立入試 類似)
1. 急速に経済成長し排出量が増加していた中国やインドなどの発展途上国に削減義務が課されていなかったこと
 2. 日本やEUなど排出割合が低下傾向にある先進国の削減目標値が、科学的根拠に乏しく低すぎたこと
 3. 化石燃料の使用制限ではなく、森林面積の維持のみが温暖化対策の主軸とされていたこと
 4. 温室効果ガスの排出枠を国同士で売買できる排出権取引という仕組みが認められていなかったこと
- 問6 特定の農産物や資源の輸出に依存する「モノカルチャー経済」の課題を抱える発展途上国において、フェアトレードが推進されている理由として最も適切なものはどれですか。 (2022年 大分県公立入試 類似)
1. 先進国の消費者が製品をより安く購入し、消費を拡大させるため
 2. 市場価格の変動による影響を抑え、生産者の安定した収入と自立を確保するため
 3. 大規模なブランディングを拡大し、特定の農産物の生産効率を最大化するため
 4. 他国からの輸入品に高い関税をかけることで、国内の伝統的な産業を守るため
- 問7 2023年に札幌市で開催されたG7気候・エネルギー・環境大臣会合では、地球温暖化を抑制するための国際的な枠組みの実施状況について議論されました。この枠組みの名称と、排出抑制の主な対象となっている物質の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2024年 北海道公立入試 類似)
1. パリ条約 ― メタン
 2. パリ協定 ― 二酸化炭素
 3. 京都議定書 ― 二酸化炭素
 4. パリ協定 ― フロンガス
- 問8 資源を有効に活用する循環型社会において、「リサイクル」と比較した際の「リユース」の特徴を説明したものととして正しいものはどれですか。 (2022年 徳島県公立入試 類似)
1. 廃棄物を燃却した際に発生する熱エネルギーを、温水プールや発電などに有効活用すること。
 2. 製品を製造する段階で、資源の消費量や廃棄物の量をあらかじめ少なくすること。
 3. 製品を一度資源や原料の状態に戻してから、別の製品として新しく作り直すこと。
 4. 製品を原料の状態まで戻すための加工工程を経ずに、製品や容器をそのままの形で繰り返し利用すること。
- 問9 地球環境保全に関する国際的な取り組みについて述べた次の文のうち、内容が最も適切なものはどれか。 (2017年 北海道公立入試 類似)
1. モントリオール議定書では、すべての加盟国に対して温室効果ガスの排出量を実質ゼロをすることを求めた。
 2. 京都議定書では、二酸化炭素などの温室効果ガスについて、先進国に削減目標の達成を義務づけた。
 3. 京都議定書では、発展途上国を含むすべての加盟国に共通の削減目標を課した。
 4. パリ協定では、特定フロンなどのオゾン層を破壊する物質の生産や消費の廃止を定めた。
- 問10 日本などの先進国が、政府開発援助（ODA）を通じて途上国へ技術協力を行うなどの国際貢献を行っています。このように、途上国の自立を促す支援を通じて、現在の課題を解決しながら将来の世代も継続して幸福に暮らせるようにすることを目指す考え方を何と呼びますか。 (2020年 滋賀県公立入試 類似)
1. 先進国による経済保護
 2. 一時的な人道支援の拡大
 3. 持続可能な社会の形成
 4. 国際分業の固定化
- 問11 日本の国際協力の一環として、機械を使わず竹や鉄管などの身近な素材と人力のみで深い井戸を掘削する「上総掘り（かずさぼり）」という技術が現地の人々に伝えられることがあります。このように、あえて高度な動力を使わない手法を伝える主な目的は何ですか。 (2025年 栃木県公立入試 類似)
1. 現地の安価な労働力を永続的に確保し、先進国の多国籍企業が進出しやすい環境を整えるため。
 2. 大規模なダム開発が行われるまでの間、一時的に水を確保するための応急処置として活用するため。
 3. 特別な動力や高度な部品を必要とせず、現地の素材を活用して住民が持続的に水資源を確保できるようにするため。
 4. 化石燃料の消費を増やし、先進国のエネルギー産業を現地で活性化させるため。